

都市再生整備計画 事後評価シート
北九州市小倉都心地区

平成26年3月

福岡県北九州市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県	市町村名	北九州市	地区名	小倉都心地区			面積	380 ha
交付期間	平成21年度～25年度	事後評価実施時期	平成25年度	交付対象事業費	10,487.4百万円	国費率	0.45		

1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	○街路(紫川東線、博労町線、城内大手町線) ○道路(国道199号、市道鍛冶町江南町1号線外、市道大手町金田1号線、市道京町18号線外、市道浅野33号線、市道浅野17号線) ○地域生活基盤施設(小倉都心サイン整備、浅野町線(シンボルロード)整備) ○高質空間形成施設(勝山通り景観整備、小倉駅周辺交通アクセス環境整備、紫川親水空間整備、勝山公園整備事業、且過第一地区市街地再開発周辺) ○高次都市施設((仮称)米町サブセンター建設工事、小倉駅周辺交通アクセス環境整備、且過第一地区市街地再開発周辺)						
		提案事業	○地域創造支援事業(小倉中央市民センターバリアフリー化事業、小倉発!エコラプロジェクト、(仮称)紫川の歴史・文化を伝える賑わい拠点づくり事業、(仮称)紫川エコリバー整備事業、交通結節点整備事業) ○事業活用調査((仮称)紫川の歴史・文化を伝える賑わい拠点づくり事業) ○まちづくり活動推進事業(小倉都心賑わいづくり推進事業)						
	当初計画から削除した事業	基幹事業	○道路(市道京町18号線外、市道浅野17号線) ○高質空間形成施設(且過第一地区市街地再開発周辺) ○高次都市施設((仮称)米町サブセンター建設工事、且過第一地区市街地再開発周辺)	削除/追加の理由 道路:関連事業の進捗状況との整合確保や、他事業との統合により削除 高質空間形成施設:関連事業との整合確保のため削除 高次都市施設:地元との協議が難航したことなどから削除	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 削除による計画全体への影響は限定的であり、指標および数値目標は据え置く				
	新たに追加した事業	基幹事業	○街路(室町大門線、大門木町線(大手町区)) ○道路(市道原町金田1号線、小倉停車場線、市道塚町3号線、市道浅野29号線) ○地域生活基盤施設((仮称)小倉駅北口西駐車場整備) ○高質空間形成施設(浅野町線(シンボルロード)整備、快適に回遊できる歩行空間創出事業、紫川夜間景観整備) ○高次都市施設(JR小倉駅北口ペDESTリアンデッキ整備)	削除/追加の理由 街路:交通の円滑な処理や、風格ある都市景観の形成等を図るため追加 道路:交通の円滑な処理や、老朽化した高欄・橋面補修実施のため追加 地域生活基盤施設:自家用車のアクセス向上・賑わい創出のため追加 高質空間形成施設:快適で魅力ある都市空間を形成するため追加 工事都市施設:安全・安心な歩行空間の確保や回遊性向上を図るため追加	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 計画全体に対する影響は限定的であることや、期待される効果に大きな変更はないことから、指標および数値目標は据え置く				
	提案事業	○地域創造支援事業(都心の公共空間活用事業、紫川エコリバー構想推進事業、北九州市漫画ミュージアム整備事業、中心市街地都市型ビジネス振興事業、アルモノーサンク改修事業) ○事業活用調査(事業評価分析、都心の公共空間活用事業) ○まちづくり活動推進事業(提案型まちづくりサポーター支援事業、小倉都心プロモーション事業(WeLove小倉プロジェクト))	削除/追加の理由 地域創造支援事業:市民文化の発展、地域の個性づくり賑わいづくりや、遊休不動産の有効活用、既存施設の利便性向上などを図るため追加 事業活用調査:事後評価を実施するため追加 まちづくり活動推進事業:遊休不動産の活用促進や、集客力及び街の魅力向上を図るため追加	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 集客拠点整備の追加が含まれており、計画全体に与える影響は大きい が、数値目標検討時点でその期待される効果については折りこみ済みとなっていたことや、事業期間が短く計画全体に与える影響は限定的であると考えられることから、指標および数値目標は据え置く					
交付期間の変更	当初	平成21年度～25年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響						
	変更	なし							

2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	指標1	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	指標1	商店街エリアを中心とした歩行者通行量	人/日	141,000	H20	177,000	H25	153,000	△	あり なし	●	回遊拠点となる施設整備や高質な歩行空間の整備・拡充などにより歩行者通行量は増加に転じてきているものの、目標値は達成できなかった。
指標2	主要な歴史・文化・コンベンション施設の年間来場者数	万人/年	147	H19	197	H25	176.5	△	あり なし	●	新たな施設の開設や、施設までのアクセス性向上などにより、歴史・文化施設では来場者が確実に増加してきているものの、目標値は達成できなかった。	平成26年3月末
指標3	「道の歩きやすさ」に対する評価	%	49.5	H19	53.5	H25	55.4	○	あり なし	—	高質な歩行空間の整備や、分かりやすさ向上を図るサイン整備などを実施したことにより、快適に歩ける歩行空間が拡充され、目標値を達成した。	平成26年3月
指標4	「夜の安全度」に対する評価	%	13.9	H19	16.0	H25	13.4	×	あり なし	●	一時は目標値を上回る値を示したものの、発砲事件などによるイメージ悪化により、目標値を達成することはできなかった。	平成26年3月
指標5	小倉都心部におけるJR・モノレール駅の年間利用者数	万人/年	4,168	H19	4,170	H25	4,128	△	あり なし	●	多様なイベントの開催や良好な都市空間の整備を進めてきたことで、平成24年度には増加傾向に転じているが、目標値は達成できなかった。	平成26年3月末

3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	その他の数値指標1	単位	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
	その他の数値指標1	週1回以上小倉都心部を訪れる人の割合	%	51.3	H19			61.7				継続的かつ多様なイベントの実施や、まちのアメニティ向上などにより、週1回以上小倉都心部を訪れる人の割合が増加している。
その他の数値指標2	小倉都心部の居住人口	人	28,590	H20			33,300				住宅整備や公園等の都市基盤整備などによる居住環境の整備などが進んだことにより、小倉都心部の居住人口は増加している。	平成26年3月

4) 定性的な効果 発現状況	<p>1) 定性的な効果: 小倉駅新幹線口(北口)エリアへの賑わいの拡大によるポテンシャルの向上 小倉駅新幹線口(北口)エリアへの集客施設の立地などにより、これまでは小倉駅小倉城口(南口)に限定されていた賑わいエリアが拡大した。これにより小倉都心地区のポテンシャルが向上し、さらなる活性化を推進していくための素地が形成されてきている。</p> <p>2) 定性的な効果: 商店主等の意欲向上による更なる活性化に向けた取り組みの広がり 中心市街地の衰退傾向が改善に転じてきていることが地元商店主等の意欲向上につながり、さらなる活性化に向けた主体的・積極的な取り組みが見られるようになってきている。</p> <p>3) 定性的な効果: 太陽光パネル設置による環境負荷の低減 ペDESTリアンデッキ上への太陽光発電施設付ルーフが整備され、エレベーターやエスカレーター、動く歩道などの電力に有効に活用されることで、環境負荷の低減につながっている。</p>				
5) 実施過程の評価		実施内容	実施状況	今後の対応方針等	
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	-	
	住民参加 プロセス	「室町常盤橋もと広場」の整備に関する地元協議会の実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	今後も引き続き地元のイベント等での利用を促進する。
	持続的なまちづくり 体制の構築	① まちの魅力発信等を行うネットワークの形成	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	今後も引き続きイベント開催などを継続する。
		② まちづくり事業を主体的に実施する法人組織の活動の活発化	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	今後も引き続きまちづくり事業などの取り組みを継続する。
③ 空き店舗などの有効活用を推進する団体の設立		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●	今後も引き続き遊休不動産等の利活用推進を継続する。	

様式2-2 地区の概要

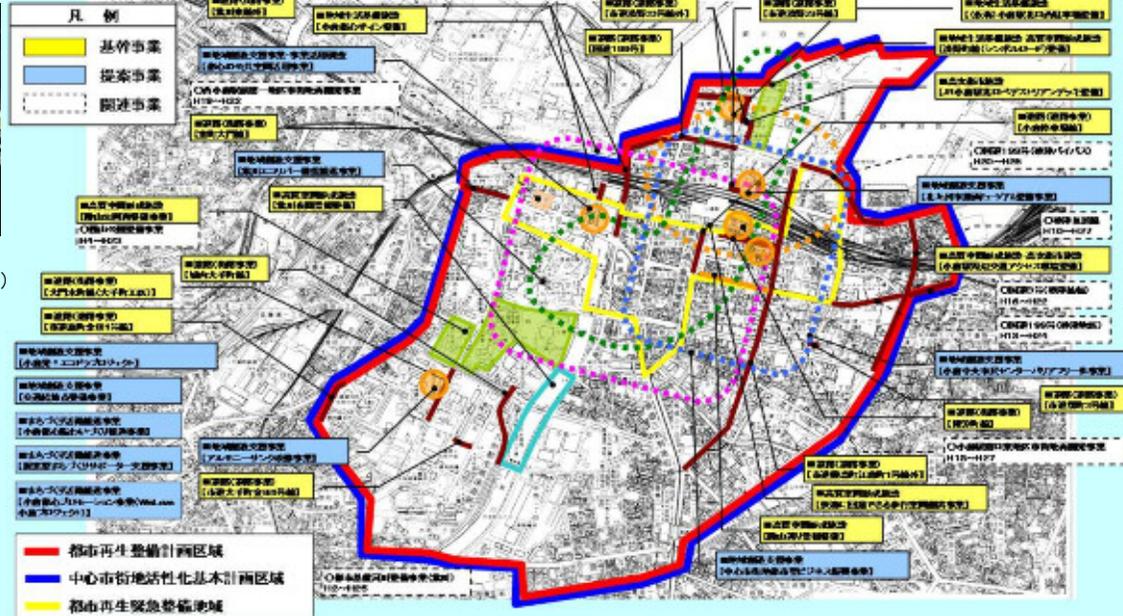
小倉都心地区(福岡県北九州市) まちづくり交付金の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値				
大目標 小倉都心部の魅力を高め、集客活性化を図るため、北九州200万都市圏の中核に相応しい高次な都市機能の充実と、都心部の賑わいづくりを推進する 目標1 個性的で多彩な魅力とアメニティの豊かさによって、多くの人をひきつける都心をつくる 目標2 多くの人が集まって、便利に、安全・安心に暮らすことができる都心をつくる 目標3 人や産業の交流が活発で円滑に行われる、充実した交通機能が利用しやすい都心をつくる 目標4 世界の環境首都を目指す北九州市のシンボルとなる、地球環境に配慮した都心をつくる	商店街エリアを中心とした歩行者通行量	単位: 人/日	141,000	H20	177,000	H25	153,000	H25
	主要な歴史・文化・コンベンション施設の年間来場者数	単位: 万人/年	147	H19	197	H25	176.5	H25
	「道の歩きやすさ」に対する評価	単位: %	49.5	H19	53.5	H25	55.4	H25
	「夜の安全度」に対する評価	単位: %	13.9	H19	16.0	H25	13.4	H25
	小倉都心部におけるJR・モノレール駅の年間利用者数	単位: 万人/年	4,168	H19	4,170	H25	4,128	H25



高質空間形成施設
(快適に回遊できる歩行空間創出事業)



地域生活基盤施設
(浅野町線(シンボルロード)整備)



地域創造支援事業
(北九州市漫画ミュージアム整備事業)



まちづくり活動推進事業
(小倉都心賑わいづくり推進事業)

左上: 紫川夜市
左下: カフェマンス
下: 勝山公園でのイベント



まちの課題の変化	①都心部の衰退傾向には歯止めがかかりつつあるものの、引き続き200万都市圏の中核に相応しい賑わいの形成を図っていく必要がある。 ②人の流れが都心部内に特定エリアに偏る傾向が見られ、まち全体へと波及していないことから、都心部内の回遊をこれまで以上に促進していくことにより、賑わいの面的な拡大を図っていく必要がある。 ③空き店舗率なども改善傾向となってきているものの、依然として都心部内には多くの遊休不動産が見られ、これらを有効に活用することで昼間人口の増加等によるまちの活力向上につなげていくことが望まれる。 ④地区内の駅乗降客数は増加傾向に転じつつあるが、更なる公共交通の利用促進を進めていくとともに、公共交通に限らず、様々な交通手段で円滑に都心部にアクセスできる交通環境の形成を図っていく必要がある。
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ●個性的な魅力により多くの人を惹きつける、賑わいのある都心をつくる。 ●継続的なイベントの実施や、歴史・文化施設の改善・特徴的な催事の開催、コンベンション施設の利用促進などを実施するとともに、積極的なPR活動を推進していくことで、まちの魅力向上やまちのイメージアップを図る。 ●都心部内の回遊を促進していくことで、まち全体への賑わいの面的な拡大を図る。 ●高質な歩行空間の拡充などにより、歩行者の回遊を促す安全・快適なネットワークの形成・強化を図る。 ●遊休不動産などを有効活用していくことで、昼間人口の増加等によるまちの活力向上を図る。 ●都心部内の空き地や空きビル、空き店舗などの有効活用を推進することで、安定的な賑わいの確保につながる昼間人口の増加を図る。 ●また、これにより賑わいの分断要素や治安上の不安要素となる空き店舗などの解消を進めるとともに、居住人口の増加にもつなげていく。 ●様々な交通手段により、都心部に円滑にアクセス可能な交通環境の形成を図る。 ●自動車や徒歩・自転車、電車・バスはもちろんのこと、航路なども含めた様々な交通手段により、都心部に円滑にアクセス可能な交通環境の形成を図る。 ●環境負荷低減等に資する技術などを積極的に活用した、都市基盤等の整備を進める。